

「テントウムシの羽化(3)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

テントウムシのサナギは珍しいものではないが、羽化の一瞬はなかなか見ることができない。羽化を始めてから終了するまでに、5分程度しかかからないからだ。気づいた時は、すでに羽化が終了していることが多いのだ。しかし、この日は中休みに、まさに羽化の一瞬を見ることができた。



テントウムシの羽化なんて、ほとんどの子どもにとってはもちろん初めて見る一瞬である。15人以上の子どもが、小さなテントウムシの変身を取り囲んで、身動きもとれない状態になっていた。中心部の子どもなど、蒸されてハハハ言っていた。



私も負けじと人垣をかきわけ、やっと撮影したのが

この一枚。テントウムシがまさに羽化を終えようとしている一瞬だ。

これは黄色い種類のテントウムシではない。テントウムシは羽化直後は翅の模様がはっきりせず、種類もわからないことが多い。羽化後、半日ぐらい空気に触れて動き回っていると、次第に模様ははっきりしてくるのだ。



騒ぎが収まると、休み時間にもかかわらず、自主的に観察カードを書く子どもが大勢いた。私が写真に残そうと思ったのと同じように、子どもたちもこの瞬間を何らかの表現で残したいのだろう。



これが作品の一つだ。この子どもは、脱皮前にサナギが動いていることに気づき、最初は「だっぴするすんぜん」ということで書き始めた。しかし、脱皮が始まったので、「だっぴしている」と変更したのである。脱皮の一部始終を見ていたことがよくわかる。